

ブユ科 Simuliidae

ver. 2019/01/15



ブユというあまりいい思い出がありません。学生時代に信州の学生村に行ったとき、勉強をしないで周りにある山ばかり登っていました。山の頂上に着いて休んでいたら、やたら小さなハエがたかってきました。たぶん、それがブユだったと思っています。後がどれだけ腫れたのかあまり記憶はないのですが、とにかく、こうやって血を吸うのは早だけです。[Wikipedia](#)によると、蚊やアブと異なり、皮膚を噛み切って吸血をするので、激痛を伴って水ぶくれができるそうです。さらに、その時に注入される唾液のためにアレルギー反応が起き、痒み、疼痛、発熱などの症状が1から2週間ほど続くということです。

ブユは幼虫期に水中で生活するので、水生昆虫の仲間に入っています。やはり、[Wikipedia](#)によると、卵は水中や水際に卵塊として産み付けられ、10日間ほどで孵化し、幼虫は溪流の岩の表面や水草に吸着して生活するそうです。幼虫は数十匹の集団を作り、尻のところにある吸盤で急流の岩上にくっついていることが多く、流れが運んでくる微粒子を食べているそうです[1]。幼虫の期間は3~4週間で水中でそのまま蛹になり、1週間ほどで羽化するとのことです。従って、ブユ成虫自体は溪流近くの自然環境のよい場所に生息しているようです。幼虫は綺麗な水を好むため、また、種によって棲み分けがなされるため[2]、幼虫は水質の指標生物になっています。環境省の「[水生生物による水質評価法マニュアル](#)」によると、ブユ科のスコアは7で、河川の水質は「良好」とのことでした。

ブユ科はムカシブユ亜科とブユ亜科に分かれますが、日本産ブユ科はブユ亜科のみで5属78種が記録されています[3]。

[1] 滋賀県小中学校教育研究会理科部会編、「滋賀の水生昆虫・図解ハンドブック」(1991); [2] 川合禎次、谷田一三共編、「日本産水生昆虫 科・属・種への検索」第二版、東海大学出版部 (2018); [3] 日本昆虫目録編集委員会編、「日本昆虫目録第8巻双翅目」、樺歌書房 (2014)。

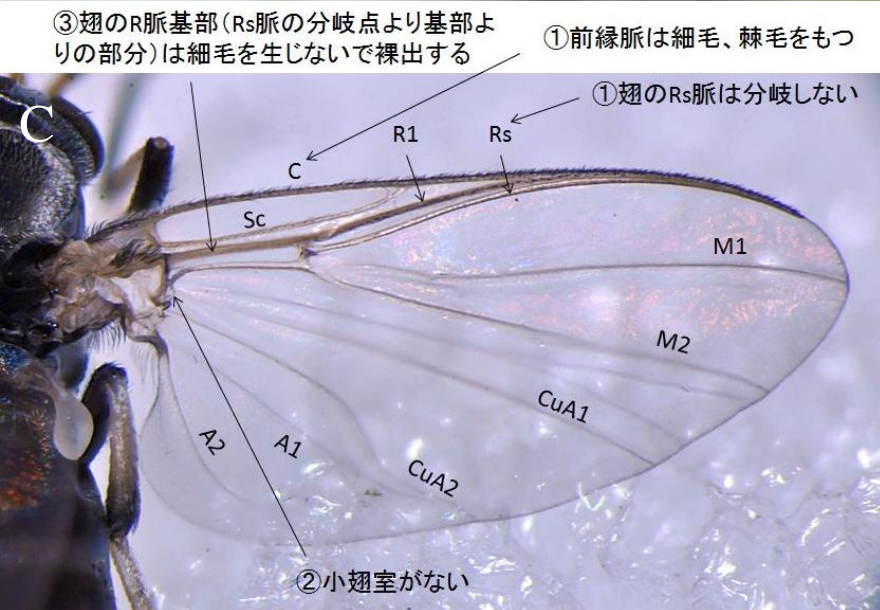
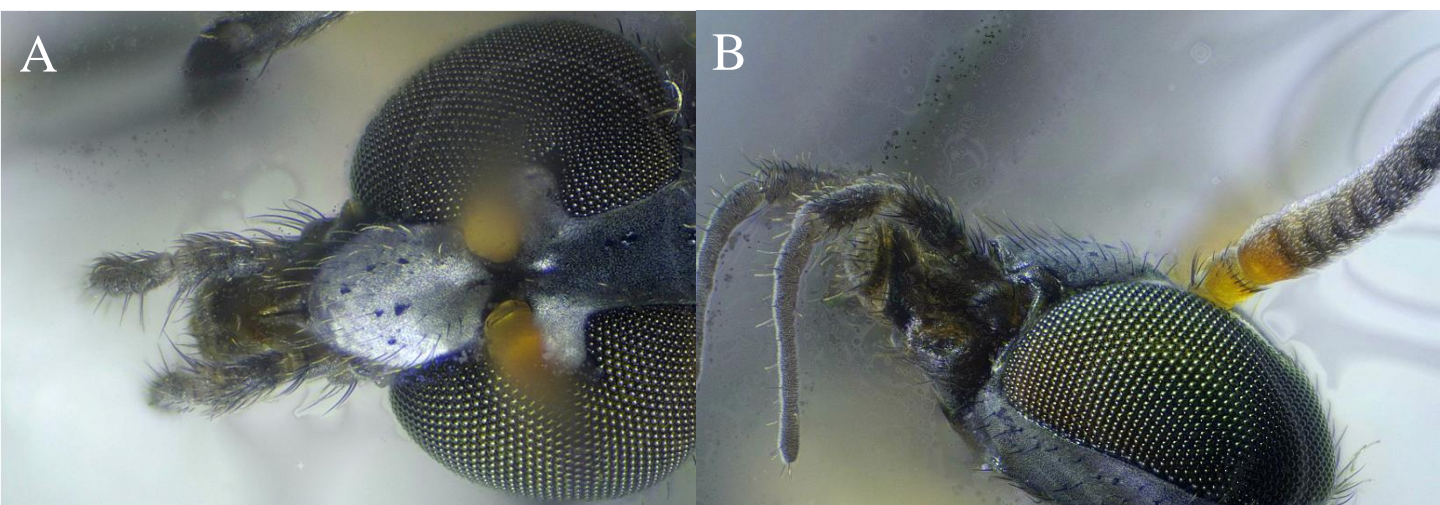
ブユ科の検索と特徴

「絵解きで調べる昆虫」(文教出版、2013)の中
の笹川満廣氏の「双翅目昆虫の絵解き検索による分類」によると、ブユの科の検索は次のような
手順で進みます。

- ①長角亜目
- ②ガガンボ類以外(胸背にV字型のしわがない)
- ③翅に二次脈はない
- ④ C脈は翅を全周しないで途中で止まる
- ⑤中室はない
- ⑥単眼はない
- ⑦ M2脈を持つ
- ⑧翅の腎葉は広がる

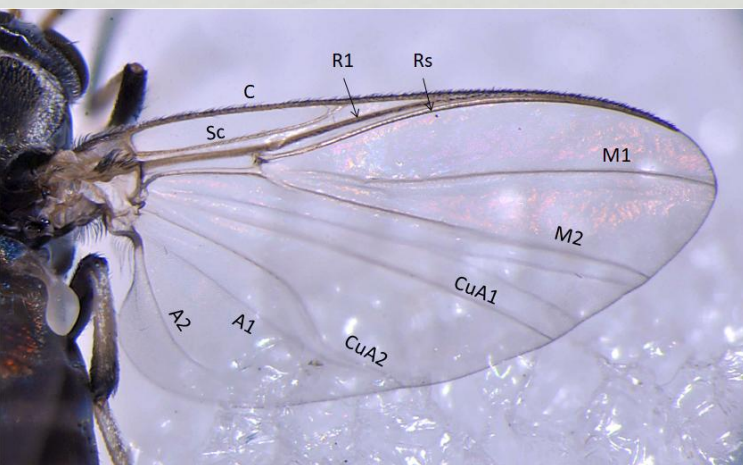
下はアシマダラブユ? ♀の前(A)からと横
(B)から写した頭部と翅脈(C)の写真です。
翅脈の写真で①~③は文献[4]に載っている
検索表の項目を表しています。このうち、①
のRsは分岐しない、前縁脈は有毛、②の
小翅室がないという2項目を調べるとブユ属に
到達します。

[4] 緒方一喜、佐々学、「日本産ブユ科 Simuliidae
の種の検索表と薬剤によるブユ幼虫の駆除法につ
いて」、*Medical entomology and zoology* 6, 10
(1955). ([ここからダウンロードできます](#))



アシマダラブユ? *Simulium (Simulium) japonicum*

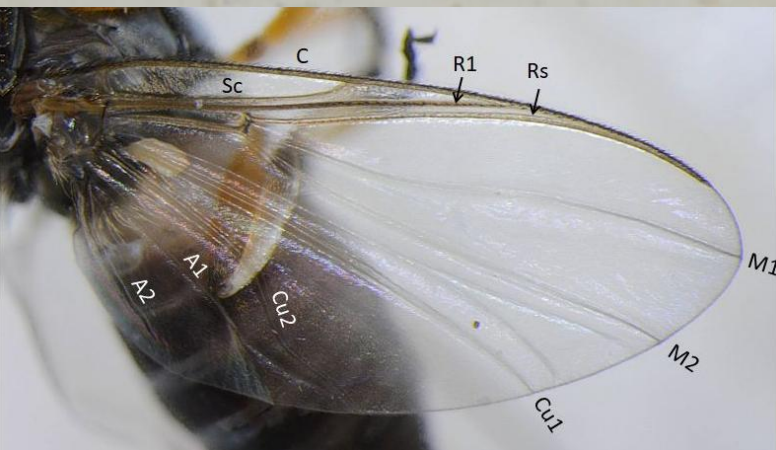
2015/12/29



脚に白い部分があります。ブユ科であることは確かそうなので、ネットで調べてみるとオオイツメトゲブユという名前がでていました。それで、それを手がかりに「日本昆虫目録」で調べてみると、オオイツメトゲブユはブユ科ブユ亜科ブユ族*Simulium*属に属していて、この属には全部で23種。このうち、本州産は15種。「原色昆虫大図鑑III」には綺麗なイラストがでているので、比べてみると、前脚腿節が基部を除き黒色で、脛節が先端を除き白いのは、ニッポンヤマ、アオモリヤマ、アシマダラ、ヒメアシマダラあたりが似ています。採集して検索をしてみると、アシマダラブユ♀の可能性の高いことが分かりました。詳細は「[ブユを調べる](#)」に載せました。

オオイタツメゲブユ *Simulium (Simulium) oitanum*

2017/12/17



これは♀で腿節が黄色のブユです。体長は3.9mm。それで、論文[4]に載っている検索表で検索をしてみました。跗節爪には中央歯(写真右下)というのがあります。これで、ヤマブユ(*Gnus*)亜属か、ツメゲブユ(*Odagmia*)亜属になります。歯が大きい方だと考え、検索をしてみるとアオイタツメゲブユになりました。この種は現在はオオイタツメゲブユ *Simulium (Simulium) oitanum* になっています。たぶん、これでしょう。詳細は「[虫を調べる](#)」に載せました。

キアシツメゲブユ *Simulium (Simulium) bidentatum*

2018/01/15

こちらはブユの♂です。胸部の白っぽい帯模様が変わっています。文献[5]に♂の写真が何枚か出ていたので、ちょっと比較してみました。これを見ると、こんな模様のあるのはヒメアシマダラブユとキアシツメゲブユみたいです。パッと見には両者は区別が付かないのですが、説明を読むと中脚脛節の色が違うようです。前者では黒褐色、後者では概ね黄色だということで、これはキアシツメゲブユかもしれません。この2種♂については論文[6,7]で再記載されていました。♂は交尾器を見ないと分からないのかなと思っていたのですが、今度採集したら、各部の特徴を比べてみたいと思っています。

[5] 林成多、「島根県産ブユ科の同定と分布」、ホシザキグリーン財団研究報告特別号 第21号 (2017)。([ここからダウンロードできます](#))；[6] H. Takaoka, "Studies on black flies of the Nansei Islands, Japan (Simuliidae; Diptera) II. On six species of the subgenera, Gomphostilbia Enderlein, Morops Enderlein, Odagmia Enderlein and Gnus Rubzov, with the description of Simulium (Gomphostilbia) okinawense", Jap. J. Sanit. Zool. 27, 385 (1976)。([ここからダウンロードできます](#))；[7] H. Takaoka, "Studies on black flies of the Nansei Islands, Japan (Simuliidae; Diptera) III. On six species of the subgenus Simulium Latreille", Jap. J. Sanit. Zool. 28, 193 (1977)。([ここからダウンロードできます](#))